

広報

長岡京

NAGAOKAKYO

臨時増刊
予算特集号

2011 4/25

No.1039

子どもたちの未来へつなぐまちづくりを

今年度は、これからのまちづくりの指針となる第3次総合計画の第3期基本計画がスタートする年。足元の課題をしっかりと見つめながら、子どもたちの未来へつなぐ施策を展開していきます。「環境」「健康」「安全」を基本に、まちの活性化や地域力の向上、文化力の創出などに力を注いでいきます。市民の皆さんからお預かりした大切なお金の使い道についてお知らせします。

【写真】耐震化のために建て替えられた小学校に入学したビビカの1年生（4月8日、長岡第七小学校で）

長岡京市の

お金の使い道

平成23年度
一般会計予算

244億
1,360万円
(前年度比 0.2% ↗)

市民一人あたり
30万5,655円

歳入

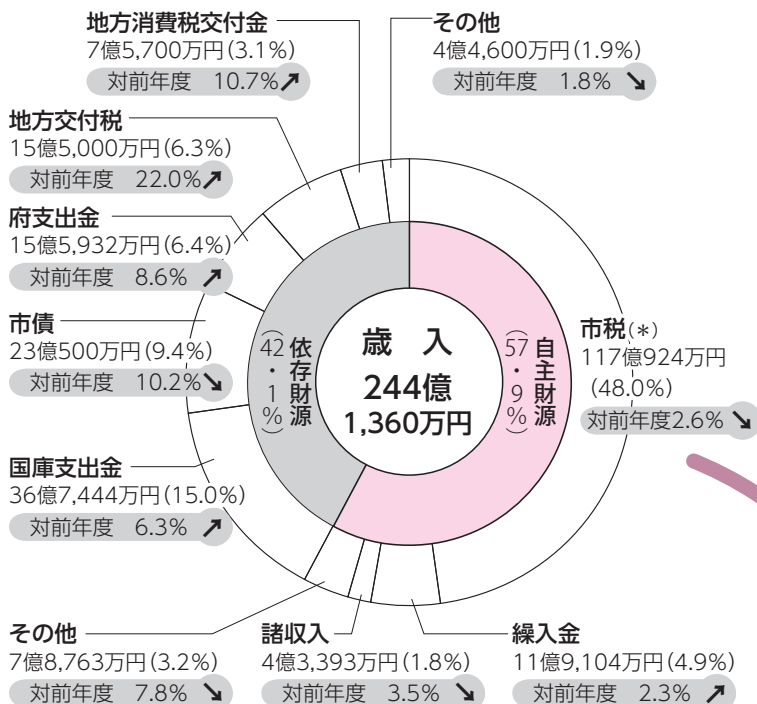
今年度の一般会計の予算総額は、244億1360万円。前年度と比べて5200万円(0.2%)の増加となりました。限られた財源の有効活用を図るため、事業を一から見直し、重点施策へ優先的に予算を配分しました。みなさんに納めていただいている税金などがどのように使われるのかをお知らせします。

問 財政課 財政係
☎ 955・9541
FAX 951・5410

今年度予算のポイント

歳入

▽市税のうち、特に「個人市民税」は4億1928万円(8.1%)の大幅な減収



(*)市税の内訳

区 分	23年度	昨年度からの増減	
市 民 税	個人	47億7,385万円	△4億1,928万円 △8.1%
	法人	6億5,522万円	△289万円 △0.4%
	計	54億2,907万円	△4億2,217万円 △7.2%
固定資産税	49億2,619万円	8,447万円	1.7%
軽自動車税	6,568万円	243万円	3.8%
市たばこ税	3億4,450万円	1,410万円	4.3%
都市計画税	9億4,380万円	255万円	0.3%
合 計	117億 924万円	△3億1,862万円	△2.6%

*表の△は、マイナスを表しています。

東日本大震災でお亡くなりになりました方々のご冥福を心よりお祈り申し上げますとともに、被災されました皆様にお見舞いを申し上げます。そして、一日も早い復興を願ってやみません。
去る1月16日に行われた長岡京市長選挙において、皆さまのご信任をいただき、三たび重責を担うことになりました。



未来へつなぐ、
文化・教育立市
8万市民の明日へ

長岡京市長 小田 豊

▽国や府から入るお金など「依存財源」は国が地方交付税の総額を維持することなどから増額

歳出

▽阪急新駅を中心とした都市基盤の整備や、小中学校などの耐震化、地域力の向上と文化力の創出を図る事業を展開

目的別(下グラフ)

▽主に福祉に使われる「民生費」は子ども手当の支給額の増額が見込まれていたことや、今里保育所の建設によって増額

▽「教育費」は長岡第七小学校の校舎の改築が完了したことにより大幅に減額

性質別(下表)

▽社会保障に使う「扶助費」は子ども手当の増額に備えたため大幅に増額

▽「人件費」は退職者が多数見込まれることから増額

▽「投資的経費」は長七小の校舎の改築完了により減額

▽特別会計などへの「繰出金」は、国民健康保険特別会計などへの繰出しが増額

▽「補助費等」は乙訓環境衛生組合への負担金などが増えることにより増額

■歳出（性質別）

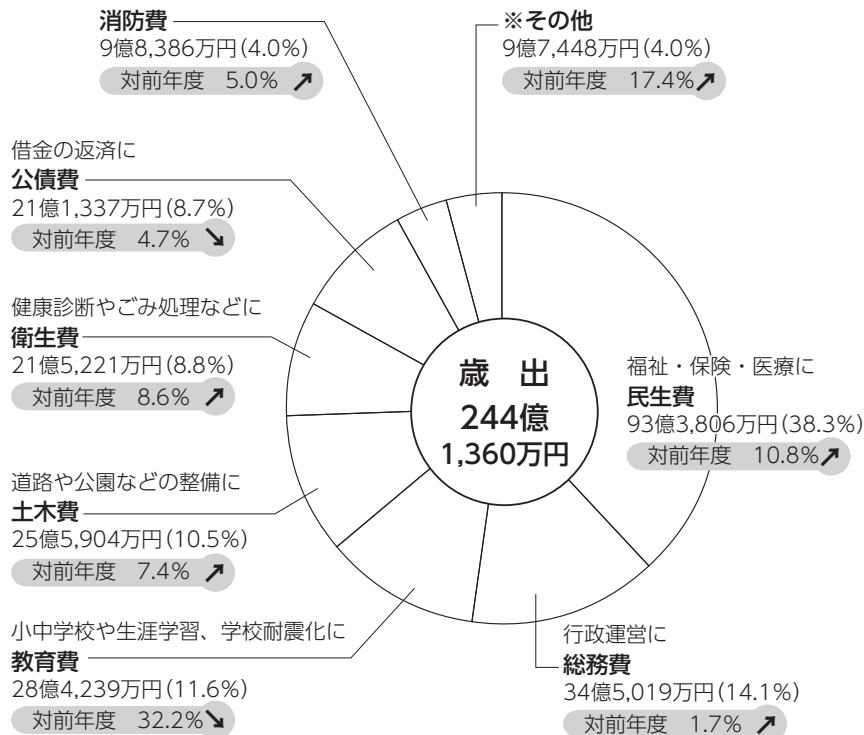
＊経費を人件費や物件費などの性質によって分類

区 分		予算額	構成比 (対前年度比)
(構成比 53.4%)	人件費	54億 7,815万円	22.4% (3.3%)
	扶助費	54億 3,667万円	22.3% (13.9%)
	公債費	21億 1,337万円	8.7% (△4.7%)
(構成比 26.8%)	物件費	28億 8,114万円	11.8% (6.5%)
	維持補修費	1億 698万円	0.4% (8.4%)
	補助費等	35億 5,833万円	14.6% (2.1%)
(構成比 7.5%)	普通建設事業費	18億 4,627万円	7.5% (△35.6%)
(構成比 12.3%)	積立金	4億 940万円	1.7% (0.4%)
	貸付金	1億 8,910万円	0.8% (0.0%)
	繰出金	23億 6,219万円	9.7% (3.4%)
	その他	3,200万円	0.1% (0.0%)

＊表の△は、マイナスを表しています。

歳出(目的別)

＊経費を行政サービスの目的ごとに分類



※その他の内訳

議会費 3億8,795万円 (1.6%) 対前年度 33.1% ↑	商工費 1億7,595万円 (0.7%) 対前年度 3.2% ↓	予備費 3,200万円 (0.1%) 対前年度 0.0% →
労働費 2億5,560万円 (1.1%) 対前年度 24.6% ↑	農林水産業費 1億2,298万円 (0.5%) 対前年度 2.8% ↑	

た。責任の重大さに心を引き締めるとともに、2期8年の実績を踏まえ、「創造と共生で住みつけたい長岡京」の実現に向け、全力で、ひたむきに取り組んで参りたい、その熱い思いでいっぱいです。

今年度は、第3次総合計画第3期基本計画が新たに始まります。私の3期目初となる今年度予算では、足元の課題を見つめながら、子どもたちの未来へつなぐまちづくりを展望する中で、気配り・目配りの視点を中心に据え、編成に取り組みました。

阪急新駅を中心とした都市基盤の整備、小中学校施設耐震化といった継続する事業に取り組み一方、地域力の向上や文化力の創出、少子高齢化社会における福祉の充実など、重要課題に積極的に取り組み、活力あるまち、安心・安全のまちづくりを進めます。

回復基調にあった景気動向も、先行きが不透明な状況となり、今年度の行財政運営は厳しいものと予測しています。職員とともに、さらなる工夫と創造に努力し、8万市民の安全・安心のため、子どもたちの将来のため、市政の推進に努めてまいります。

環境、市民が誇る 「水」・「みどり」の保全

「国際森林年」を記念して小学生への
西山の環境教育や環境フェアの開催

……………70万円

▷2011年は国連が定める「国際森林年」です。市の面積の約4割を占める西山に親しみ、環境を大切に
する心を育みます。

西山の保全や森林整備への支援

……………2,183万円

「環境基本計画」の改定……………315万円

防犯灯などのLED化……………287万円

住宅用太陽光発電システムの

設置助成……………200万円

ゴミ組成分析や生ゴミ処理機購入

補助などゴミ減量対策……………244万円

水道事業への支援……………4,120万円

有害鳥獣への対策や土地改良、戸別

所得補償など農業支援……………1,062万円



◀西山の自然を次世代
に伝える

「交流・活力・にぎわい」 の創出

阪急新駅を拠点としたまちづくり事業

……………4億690万円

▷駅舎建設負担金や東西自由通路の
整備、駅前広場の設計、西代公園
の基本計画など



▲阪急新駅の完成イメージ

「はっぴいバス」の継続運行と新たな
公共交通網の検討……………2,547万円

阪急長岡天神駅周辺のバリアフリー

化の検討……………350万円

長岡京駅前線の西伸整備

……………1億9,812万円

細川ガラシャの大河ドラマ誘致活動

……………21万円

食の祭典開催や空き店舗対策など商
店街への支援、中小企業への経営支援

……………338万円

平成23年度
5つの重点
テーマ

今年度は、 何を？

まちと市民が輝く、元気・親切予算
未来へつなぐ、文化・教育立市 8万市民の明日へ

毎月の収入

給与 (市税・財産収入など)	15万3,712円
手当・臨時収入 (交付税や交付金など)	9万9,993円
パート・アルバイト収入 (分担金・負担金、使用料・ 手数料)	8,180円
+	
預金引出し(繰入金)	1万4,912円
借金(市債)	2万8,858円
収入合計	30万5,655円

毎月の支出

食費(人件費)	6万8,586円
医療費(扶助費)	6万8,066円
光熱費・被服費(物件費)	3万6,072円
塾の月謝・保険料など (補助費等)	4万4,550円
家具などの修理 (維持補修費)	1,339円
家のリフォーム (投資的経費)	2万3,115円
ローン返済(公債費)	2万6,459円
仕送り(繰出金)	2万9,574円
預金(積立金など)	7,894円
支出合計	30万5,655円

生活費がかさ
んで、やりく
りが大変



なんとか
蓄えたいね～

長岡京市の予算を 家計簿に例えると？

23年度の一般会計予算の総額を、市民一人あたりに換算すると約30万円。この金額を月収に例えて、1カ月あたりの家計簿を作ってみました。



認知症サポーターの養成(※介護保険会計) …92万円
 民生児童委員の活動費補助の拡充 ……1,232万円
 国民健康保険料の料率引き上げを抑えるための
 特別支援 ……6,000万円
 緊急雇用創出事業など就労支援 ……8,302万円
 男女共同参画社会の実現に向けて「女性の相談室」の
 拡充やフォーラムの開催など……………174万円

●子育て支援、学校教育の推進

待機児童の解消に向けて、民間保育園の施設整備への
 支援や乳児保育委託助成の充実……………1億8,104万円
 ▽長七小の敷地内に今里保育所を移転します。移転後
 は、民間の社会福祉法人が運営します。

病後児保育の充実 ……2,388万円
 つどいの広場の運営支援 ……1,120万円
 妊婦健康診査14回公費助成を継続 ……6,320万円
 小中学校の英語教育を指導員の増員などにより充実
 ……2,070万円
 小中学校の読書活動の充実 ……1,308万円

安心、いきいき 「健康・福祉」の推進

●健康の増進

地域医療の充実のために、済生会京都府病院の医療機
 器(MRI)更新整備への助成 ……1,184万円

子宮頸がん・ヒブ・小児用肺炎球菌ワクチンの
 無料接種事業 ……8,299万円
 働く世代への大腸がんの無料検診 ……384万円
 「食育推進計画」の啓発やフォーラムの開催 ……20万円

●安心な暮らしを守るために

「福祉なんでも相談」の新設や生活保護のケース
 ワーカーなど相談・支援体制の充実

高齢者などの持病や服用薬など、緊急時に必要な情報を
 記したカードを入れる「命のカプセル」の配備…34万円



借金と預金は？

■市債(借金)

小中学校の耐震化事業にか
 かる市債の発行が減る反面、
 地方交付税の不足分を立て替
 えるための「臨時財政対策債」
 の発行が増えるため、昨年度
 に比べて残高が増えます。

■財政調整基金(預金)

「財政調整基金」は、不況
 による大幅な収収の減少や災
 害発生など思わぬ支出の増加
 に備えた積み立てです。事業
 の見直しを行い、基金の取り
 崩し額を抑えています。

■財政調整基金(預金)残高の推移

19年度	24億3,463万円
20年度	19億5,308万円
21年度	18億2,789万円
22年度	21億5,241万円
23年度	16億8,824万円

■市債(借金)残高の推移

218億7,545万円
215億9,034万円
215億4,179万円
229億9,966万円
235億6,501万円

*数値は一般会計。22・23年度は見込み額です。

民生費	11万6,911円
総務費	4万3,196円
教育費	3万5,586円
土木費	3万2,039円
衛生費	2万6,945円
公債費	2万6,459円
消防費	1万2,318円
議会費	4,857円
労働費	3,200円
商工費	2,203円
農林水産業費	1,540円
予備費	401円

一人あたりの予算は？

30万5655円

*人口7万9873人(平成23年4月1日現在)で計算

「地域力」の向上と「文化力」の創出

国民文化祭の開催600万円

▷今秋、京都府で行われる「国民文化祭」は、国内最大の文化の祭典です。本市は「オーケストラの祭典」と「クラシックバレエの饗宴」を開催。長岡京市の「文化力」を全国に発信します。



▲乙訓文化芸術祭「バレエの祭典」（今年3月）で的一幕

長岡京音楽祭や乙訓文化芸術祭への支援など
文化力の向上に向けて561万円
史跡公園として恵解山古墳の保存整備を開始...2,617万円
総合型地域スポーツクラブの運営や立ち上げの支援
.....1,639万円
西山公園体育館周辺にウォーキングコースを整備
.....169万円
市民活動応援補助制度の新設128万円
地域コミュニティ活性化事業262万円
自治会加入世帯増加への支援や地域の集会所の
建設補助3,786万円

「安心・安全」の まちづくりの推進

小中学校の耐震化の推進5億4,573万円

▷災害時に避難所となる小中学校の耐震化を進めています。今年度も引き続き、校舎や体育館の補強工事や設計、耐震化計画の策定などに取り組みます。

指定避難所となる小中学校への災害用マンホール

トイレの整備（※下水道会計含む）3,741万円

▷マンホールトイレは、災害時に下水道に接続する仮設のトイレです。平成25年度まで計画的に設置を進めており、すでに6校に整備済みです。



◀断水になっても
ブルの水などでも
使用することが
できる

深田保育所耐震化の実施設計435万円
市庁舎耐震化の検討1,208万円
住宅耐震改修の補助や耐震診断と相談544万円
雨水・浸水対策として、風呂川の雨水貯留施設の整備や
「水循環再生プラン」の策定（※下水道会計）...7,906万円
自主防災組織の育成・拡大129万円
災害時用備蓄物資の整備（全人口3割分）を継続
.....144万円
消防団のポンプ車を更新2,423万円



▲昨年、初めて取り組んだ「サマーレビュー」。
予算編成を前に市長や部局長が主要な課題や
政策の方向を議論した



◀外部の視点で事業を見直
す「事業仕分け」

■効率的・効果的な行政運営に向けて
▽市税や国民健康保険料などのコンビニ収納の導入（来
年4月開始予定）▽電子入札の導入（10月実施予定）▽
市民協働の推進▽京都府立大学との官学連携の推進など

■事業を一から見直し
昨年度予算から、事業を一から見直し、本当に必要な経費
か、無駄がないかなど事業の総点検を行いました。その結果、
今年度予算では、人件費や事務経費などを精査し、約
1億1400万円の財源を捻出し、優先度の高い事業に割り
当てました。今後引き続き、市民サービスを維持し、質的
な向上を図るために、行財政の健全化に努めていきます。

少子高齢化の進展や、長引く不況の影響により、市税収
入は減少が続いています。今後も、福祉にかかる経費など、
義務的な経費が増え続ける中、市民サービスを維持するた
めに、「事業仕分け」や「サマーレビュー」などの手法を
取り入れながら事業の総点検と整理を行いました。

限られた財源の中で
市民サービスを維持するために

一般会計の他には？

ここからは、特別会計と水道事業会計の予算をお知らせします。どちらとも一般会計とは別に経理しています。特別会計は、特定の事業を行うための会計、水道事業会計は公営企業の会計です。

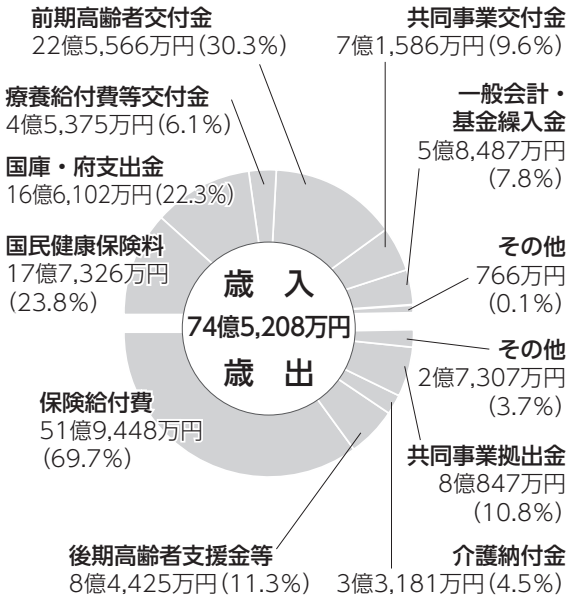
国民健康保険事業の特別会計

前年度と比べて2億170万円（2.8％）の増加となりました。保険給付費の増額などにより、増加傾向にあります。国民健康保険の主な財源は、加入者が納める保険料や国・府からの支出金、一般会計からの繰入金などです。

■保険料の引き上げを抑制

高齢化の進展などにより、保険料収

入の確保が難しくなっている一方、歳入は年々増加しています。歳出の増加を賄うためには、保険料を引き上げる必要があります。しかし、保険料率の大幅な引き上げを抑えるために、一般会計や財政調整基金からの繰り入れを行いました。また、保険料の賦課限度額を引き上げ、低中間所得層の保険料負担の軽減を図りました。



■予算の推移

19年度	66億 548万円
20年度	66億1,819万円
21年度	70億8,874万円
22年度	72億5,038万円
23年度	74億5,208万円 2.8% ㊦

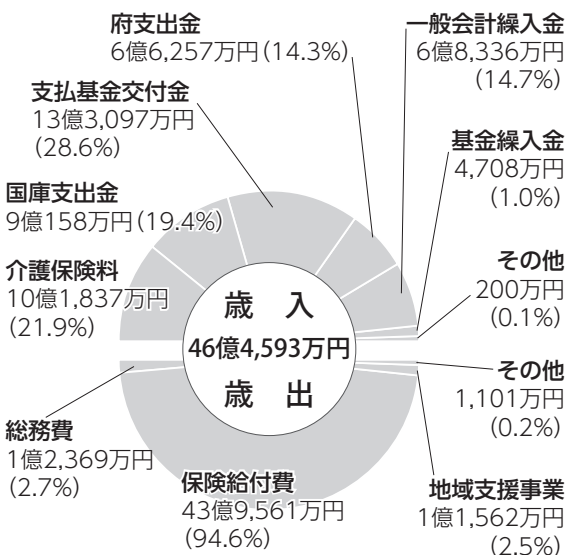
介護保険事業の特別会計

前年度と比べて1億6691万円（3.7％）の増加となりました。予算は「長岡京市第4期介護保険事業計画（平成21～23年度）」にもとづく利用見込みから編成しました。

■高齢化による要介護認定者の増加

本市の高齢化率は21・2％（平成23年4月1日現在で、前年度と比べ

て0・3％増加し、年々上昇しています。それに伴い、要介護認定者数も約4％の増加を見込んでいます。歳出のうち、保険給付費は要介護認定者と介護サービスの利用者の増加により、前年度と比べて4・4％増加しています。



■予算の推移

19年度	36億2,501万円
20年度	37億5,572万円
21年度	41億2,961万円
22年度	44億7,902万円
23年度	46億4,593万円 3.7% ㊦

国民健康保険課 国係

955・9511 FAX 951・1929

高齢介護課 介護保険係

955・2059 FAX 951・5410

公共下水道事業の特別会計

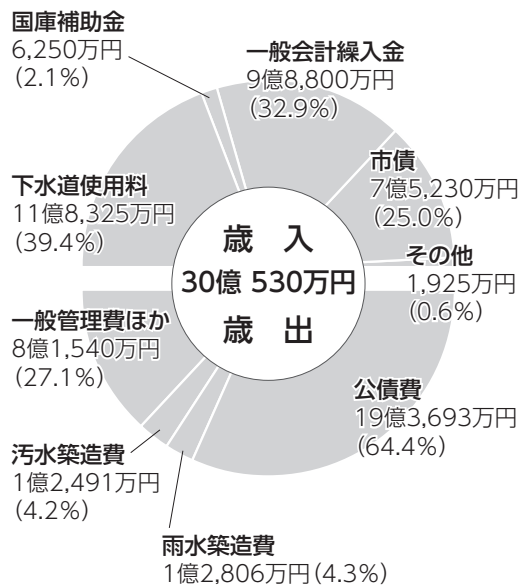
前年度と比べて7019万円（2.4％）の増額となりました。

下水道管を新設する工事費は減少傾向にありますが、今後は古くなった下水道管の耐震化を含めた改修や更新などの費用が必要になります。

歳出では、公債費の割合が大きくなっています。公債とは、今までの工事にかかった費用の借入金で、その返済を行っています。借入額よりも元金の返済額が上回っていることから、借入金の残高も緩やかに減少する予定です。

■大雨の被害を防ぐために

大雨による浸水被害を防ぐため、風呂川排水区の野添公園の地中に雨



■予算の推移

19年度	33億8,274万円
20年度	32億 70万円
21年度	32億1,642万円
22年度	29億3,511万円
23年度	30億 530万円 2.4% 増

水の貯留槽（*）を2年かけて建設します。また、府が流域下水道浸水対策事業として建設を進める、いろは呑龍トンネルの南幹線の整備に伴い市内の「浸水対策計画」を策定したり、浸水被害の軽減や地下水を涵養する方法などを定める「水循環再生プラン」を策定したりします。

今年度も引き続き、避難所となる小中学校への災害用マンホールトイレの設置を進めていきます。

*雨水貯留施設：1680㎡の貯留槽のうち180㎡が消防水利を兼ねているため、浸水と火災の2つの災害に対して効果を発揮します。

水道事業会計

水道事業は公営企業として、市の一般会計や特別会計とは別に、料金収入を主とした独立採算制で運営しています。

水道事業会計は、お客様に水道水をお届けするための「収益的収支」と投資的経費として水道施設を整備・改修するための「資本的収支」があります。

水道料金を引き下げ

今年度は、浄水場統合による業務の効率化や営業業務の民間への包括委託などによる経営改善の成果と、京都府への働きかけによる府営水道供給料金の引き下げによって、水道料金

を平均5・14％、一般家庭用の標準使用水量で9・53％引き下げました。

今年度から配水池の統合事業を始めることから、施設の廃棄と撤去費を予算に計上しています。そのため、今年度は純損失赤字となります。

■配水池の統合や管路の耐震化など

本市の「水道ビジョン」実現に向けて、平成22年度から平成26年度までの5力年を計画期間とする「水道事業中期経営計画」をもとに今年度の予算を編成しました。

主な事業として、配水池の統合、基幹管路の耐震化、鉛製給水管の取替、老朽化した配水管の更新などを予定しています。

■収益的収支（税込み）

収益的収入	水道料金	21億4,876万円
	受託工事収益	1億6,984万円
	一般会計補助金	4,251万円
	下水道徴収受託料ほか	9,339万円
	計	24億5,450万円
収益的支出	府営水道受水費	9億1,720万円
	減価償却費	4億2,166万円
	人件費	2億3,254万円
	受託工事費	1億9,893万円
	修繕費	1億6,228万円
	動力費ほか	5億5,380万円
	計	24億8,641万円
当年度純損失		3,191万円

■資本的収支（税込み）

資本的収入	企業債	2億1,000万円
	加入金・分担金	5,743万円
	負担金ほか	262万円
	計	2億7,005万円
資本的支出	建設改良費	4億5,303万円
	企業債償還金	2億4,289万円
	計	6億9,592万円

問 上下水道部 総務課 下水道係

☎ 955・9538

FAX 951・2200

問 上下水道部 総務課 水道係

☎ 955・9538

FAX 951・2200